

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

洋光台は住宅地(集合住宅と戸建て)と洋光台駅周辺の商業地からなり、高齢化率が磯子区平均を上回る31.9%となっています。高齢者世帯(単身世帯を含む)の割合も高く、消費者被害も多いことから、見守り支援など地域での支えあいの体制が課題となっています。地域では高齢者の食事会や交流サロン、認知症カフェなどの活動が活発に展開されていましたが、コロナ禍の影響で活動の再編・見直しに至った活動もあります。また、エレベーターのない集合住宅や坂道も多く、外出の自粛と相まって高齢者や障害者の行動制限、脚力低下・フレイルの要因にもなっています。一方、集合住宅等には若い世代も多く、子育て支援や世代間交流の機会も必要となっています。この点についても、プレイパーク等の地域ぐるみの子育て支援や世代間交流を目的とした様々な活動が展開されています。一方で担い手不足の状況もあり、新たな担い手の育成も課題となっています。

市営住宅やUR団地の建て替え、新しい地域の通いの場の開始など、町のリニューアルが進む中、第4期スイッチON地区別計画に沿って、地域活動の支援、個別相談、自主企画事業に取り組んでいきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	「困った時の情報ガイド」の内容を、協議体等で地域の方と一緒に検討して改定します。リニューアルされた「困った時の情報ガイド」は、包括支援センター職員の訪問時に持参したり、自治町内会・民児協、UR、地域の居場所等に協力を依頼し広く配布します。
■	<input type="checkbox"/>	子育て支援事業の充実を図ります。通常開催している親子の交流スペース「ぷらっと」に加え、0歳児を対象にした「ベビーぷらっと」を開催します。また、公園での「あおぞらぷらっと」や一丁目町内会館での「出張ぷらっと」を開催します。
<input type="checkbox"/>	■	消費者被害防止の取組を進めます。地域の活動やサロンなどで出前講座を行い、広く注意喚起します。サービス事業所への周知には、区地域ケア会議推進連絡会で検討した消費者被害防止のための啓発媒体「瓦版」を活用します。
<input type="checkbox"/>	■	「地域活動ネットワーク・洋光台“わっふる”」で、毎月定例会を実施します。様々な団体・立場の人の参加を仰ぎ、地域課題やアイデアを話し合いながら、コロナ禍でも行える取り組みを検討し工夫して実施します。その中で、新たな関わり・活動の拡がりとなるよう働きかけていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

未だコロナ禍の影響のもと、現状実施可能な内容を検討しながら事業を運営しました。年度を通して生活支援コーディネーターが欠員しており、地域包括支援センター職員・地域交流コーディネーター間で協力して事業運営にあたりました。上記取組に関しは、概ね計画通りに取組め、目標を達成できました。

○「困ったときの情報ガイド」について協議体(兼包括レベル地域ケア会議)で見直し改訂、普及方法を検討しました。

○子育て支援事業として、定期的に「ベビーぷらっと」、「あおぞらぷらっと」を開催しました。2月には一丁目会館で「出張ぷらっと」を開催しました。

○消費者被害防止の出前講座を2回実施しました。「瓦版」は、エリア内の全ての掲示板での掲示の他、要支援の契約時に手渡したり、訪問介護事業所経由で配布しました。

○冊子改訂について「わっふる」で検討しましたが、約1年休止していた「情報誌わっふる」の発行を優先することになりました。

2階の貸館利用に関しては、コロナ前と変わらないほど利用率が回復してきています。

地域包括支援センターの相談に関しては、件数自体とても多いですが、特に悪性腫瘍ターミナル期の相談が多く、虐待、成年後見申立の支援も多くありました。介護保険申請受付件数も年間400件ペースとなっています。

新しい取り組み・事業としては、日曜日開催の『わくわく体操』、新しく立ち上がった男性のまちづくりネットワーク『チームGO! O』の活動支援などを行いました。また、re net結のサービスB『we can くらぶ』の運営支援、小地域の課題への働きかけ・活動支援、六校の学校地域コーディネーターの意見交換会開催、などにも取り組みました。

地域の新たな動きとして、駅前シェアベース(サービスB新規申請含む)の立ち上げの動きがあり、その支援も行いました。

区からのコメント

・職員が欠員している中でも、様々な事業に取り組んでいただくとともに、UR団地や学校とも積極的に連携いただきました。特に、活動者に寄り添い、活動が無理なく続けられる形で取り組めるよう促し、支援する姿勢は素晴らしいと思います。継続事業に加え、新たにつながった団体や関係機関との様々な連携を開拓しつつ、今後の取組が展開されることを期待しております。

・地域ケアプラザがが一体となり、地域包括支援センター職員と地域交流コーディネーター職員が協働して、地域に根ざした事業の展開・新たな活動団体への支援等が行われています。引き続き区も連携しながら、地域の皆様の主体的な活動の促進、支援をしていきたいと考えています。